opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 71

第二バチカン公会議後に生じりい公会議後の当れたといるというではいいますがはいないますがある。これがいいと言うにというと言いますがある。これではいい。流れないはいいにないはいいにないないにないまた。

2025/02/25

過去の記事はこちらから

人類の歴史は進歩と退歩を伴いなが ら絶えず変化していますが、18世紀 末に起こったフランス革命以降この 変化のスピードはますます加速して 来ました。その変化の多くはカト リック教会には逆風になりました。 それで教会がまず自己防衛の態度を とったことはある程度自然だといえ ます。しかし、新しい世界はもちろ ん積極的な面も持っていました。教 会は、地の塩として世界に味を与え る使命を持っています。それゆえ、 新しい現代社会の明暗の中でも働き 続けねばなりません。

第二バチカン公会議が開催されたのは、この問題を議論し、現代世界の中での教会の方向をはっきりさせるためでした。3年間の議論の実りとして多くの文書ができあがりました。しかし、すでに会議の途中から、この改革路線を利用して教会あら、この改革路線を利用して教会が強くなりました。つまり、キリス

トから直接受けた不変の教えまで変えようというのです。不思議なことに、この動きは「第二バチカン公中に、我会の精神」を名乗って、教会の中では、大人では、後して教会の教えが疑いの対象となり、多くの司祭や修道者が脱退、神学校が空っぽになるなど、考えられないような状態が出現しました。

この逆境の中で、神父はまず祈りと 犠牲を捧げました。西欧諸国にある 聖母マリアゆかりの教会や小聖堂に 巡礼。そして、「目立たず隠れる」 という信条を撤回し、「真理を叫び 知らせる」という方針を取りまし た。

1970年には大西洋を渡ってメキシコのグアダルーペの聖母に祈りに行きました。もちろん、メキシコや他のアメリカ諸国で働くメンバーとその友人たちに会うためでもあります。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-71/ (2025/11/29)